

# 自彊前進

題字 西村直子

NO. 26 令和4年11月1日(火)

新潟大学附属新潟中学校 学校だより  
文責 教頭

※ 自彊前進…自ら努め励み、前に進むこと  
(校歌3番の文言から)

## 教育研究発表会終わる

3年ぶりでの対面開催でした。3年生にとってもこの学校に入学して初めての対面での研究発表会でした。Zoomで行う研究発表会とは異なり、緊張感も比べ物にならなかったと思います。

各教科の授業においては、研究発表会当日が近づくにつれ、各学級の生徒と生徒、生徒と教師が目的を共有し、日々絆が強固になっていく様子が手に取るように分かりました。授業の場面だけでなく、前日準備の時間においても同様です。普段手の届かない細かなところまで清掃、整備している姿はとても素敵でした。研究発表会に参加された先生方から、沢山の感謝のコメントが寄せられました。皆さんの本気さ、おもてなしの心は確実に参加された先生方に届きました！

### 教育研究実践校として

当校は、大学及び附属小学校と一体となり、教育の理論及び実際に関する研究を行い、中学校教育に寄与する責務を課されている。そのときそのときの、学校教育上の課題や、社会的な要請をとらえ、教育の進むべき方向を明らかにすべく、目の前の生徒の実態に即して全体研究の主題を設定し、日々の実践を積み重ねている。厳しい中でも、生徒と教師とで共により善い授業を目指すことによって人間関係が築かれる附属中学校の伝統は今も変わらない。

『ふぞく120年—新潟大学教育学部附属新潟小・中学校』(平成6年)



大学指導者、下越指導者、司会者、  
本校教官の厳しい目が光る



笑顔いっぱい、情報交換  
活動に取り組む生徒たち  
(英語があふれる授業)

コロナ禍で3年ぶりの対面開催であったとしても、研究発表会を開催すること自体が目的ではありません。目的は附属新潟中学校がチームとなり、生徒も教師も互いによりよく成長しようとする意欲を高めることです。前号で、研究主任の山田耀先生からは、『自分の所属する集団に責任感や当事者意識をもって、よりよい方向へ変えていこうとする力』の育成が大切だとお伝えしました。

今回他附属の中学生や人生の大先輩等、たくさんの学校外の方々と繋がりました。この方々との出会いを大切に、互いにWIN-WINな関係で在り続けたいですね。

私たち附属新潟中学校の使命は、決して大げさではなく、日本の教育関係者に、教育の進むべき方向を示し、中学校教育に寄与することなのです。

これからもこの覚悟をもち、互いに『生き方を求め』一緒に学んでいきましょう！

